

御殿場方言かるた大会 ルール

令和7年3月15日
御殿場方言かるた実行委員会

大会の趣旨

この大会は、完成した「御殿場方言かるた」で遊ぶことを通じて、失われつつある当地の方言を知り、歴史や文化を学び、次世代に伝えることを目的に開催します。

勝ち負けに執着せず、楽しみながら一緒に遊ぶことが一番大事です。審判が悩むことが極力起こらないように、是非「ゆずりあい」の精神で競技してください。

●種目

- ・1チーム3人一組の団体戦のみとし、各チームが異なる相手と2回対戦して総合得点を競う。

●競技に用いる札

- ・「御殿場方言かるた」読み札、絵札それぞれ46枚
(予備札〔白札〕4枚を予め抜いておくこと)

●競技の進め方

- ①コートを挟んで3人（1チーム）が一行になり向かい合って正座する。
- ②絵札（取り札）を真ん中に置く。
- ③両チームのリーダーがじゃんけんをし、勝ったチームが絵札をよく切り、2つの山に分ける。もう一方のチームから先に絵札の山を選び、残った山をじゃんけんに勝ったチームが取る。
- ④両チームは絵札を自分のチームの陣地に並べる。上段に12枚、下段に11枚並べるものとし、絵札の上端を横の中央線に向ける。（別紙図参照）
- ⑤読み手が読み札を読み始めるまで、選手は正座し手は右手を右ひざ、左手を左ひざに置いておく。また、コート内に体（手、膝、頭等）を出さない。
- ⑥読み手が読み札を2回読み上げる。
- ⑦札を取るときは絵札の上に手を置く。絵札の上に置いた手は、審判の合図があるまでそのままにする。絵札はどちらか片方の手で取り、両手で絵札を取る動きをしてはならない。
- ⑧コート内の絵札が残り2枚となったら一旦審判が預かり、両チームの陣地に絵札を1枚ずつ置く。読み手が札を読んだら、自分の陣地の札をそれぞれ取る。
※最後の2枚は取り合いをせず、両チームが1枚ずつ取る。
- ⑨競技が終わったら、両チームのリーダーは自分のチームが獲得した絵札をまとめ、審判長の掛け声に合わせて自分のチームの陣地に1枚ずつ絵札を置き、枚

数を数える。数え終えたら両チームのリーダーは獲得した絵札の枚数を審判へ報告する。審判は結果を「得点記録用紙」に記入し、記録係に報告する。

●得点の数え方

- ・取り札を1枚1点として考える。

●勝敗の決め方

- ・総合得点の点数の多い方が勝者とする。
- ・総合得点が高得点の場合は、リーダーがじゃんけんをして順位を確定する。

●試合上の注意

- ①絵札を取るときは、両手を使ったり、札にかぶさってはいけない。また、札は飛ばしたり引っ張ったりせずに、片手を札の上に置く。
- ②正しい絵札（読まれた札）以外の絵札に手を触れたら全て「おてつき」とし、獲得した絵札の中から1枚を相手チームに渡す。ただし、両チームが「おてつき」をした場合、まだ獲得した絵札が無い場合には渡す必要はない。
- ③正しい絵札を取るために隣り合った絵札に偶然触れてしまった場合は「おてつき」としない。
- ④味方のチームの2人もしくは3人が同時に「おてつき」をした場合でも、相手に渡す絵札は1枚とする。
- ⑤同じ人が「おてつき」をした後、正しい絵札に触れた場合は「無効」とし、正しい絵札は相手チームに渡す。また「おてつき」の分の絵札を相手チームに1枚渡す。
- ⑥横払い（札を飛ばして取ること）は禁止である。万が一、選手が横払いをした場合は以下のとおりとする。
 - 【正しい絵札の場合】 正しい絵札は相手チームが獲得する。
 - 【正しくない絵札の場合】 「おてつき」と同様の扱いとする。
- ⑦絵札を取る際に両チームの選手の手が重なった時は、手が下の選手が属するチームが絵札を獲得する。
- ⑧絵札に両チームの選手が同時にふれた時は、絵札が置かれた陣地側のチームが獲得する。※同時の場合は双方がゆずりあいの精神で解決するものとするが、どうしても決まらないときは審判に判断を求める。
- ⑨試合中、最初に並べた絵札の位置を故意に変えてはいけない。絵札が動いてしまった時は、審判の指示により、自分の陣地の絵札を元の位置に戻す。審判の指示無く絵札に触れてしまった場合は、注意となる。